

成田市環境学習会

初夏の雑木林で自然観察

小川洋子（八千代市）

日 時：平成 30 年 6 月 30 日（土）9 時 30 分～12 時 天候：晴れ

参加者：17 名（内子ども 5 名）

担当指導員：谷 英夫、阪上津留美、伊藤道男、小川洋子

成田市環境計画課：5 名

記録的な早さで梅雨が明けた翌日 6 月 30 日、成田市坂田が池公園で今年度第 1 回目の成田市環境学習会が実施された。集合場所の公園駐車場の気温は 35 度とか、大変な猛暑だ。今回の参加者は子ども連れの 2 家族と大人たち。テーマは『初夏の雑木林で自然観察』。自然観察といつても大人と子どもでは興味が違うことをふまえ、大人中心の班と子ども連れ家族班に分けて学習会を行った。

池からキャンプ場へ舗装道路をゆっくり進む。道路右手のエゴノキの葉に何やらついている。よく見るとぐるりと巻かれた葉が途中で切られ ぶら下がっている。これは何だろう？ 誰が作った？ 答えはエゴツルクビオトシブミという小さなコウチュウが作った搖籃だ。1 cm に満たない小さな体で若い柔らかな葉を巻き 卵を産む、その葉は孵化した幼虫の餌と住処になる。子どもだけでなく大人からも驚きの声があがつた。頭上にはコシアキトンボが何頭も飛び、アオスジアゲハなどのチョウ類も飛んでいる。子ども班は捕虫網を持ち、虫を捕る気満々だがチョウたちはヒラリヒラリと網をかわして逃げる。虫を捕まえるのは難しい。それでも努力の甲斐あって捕まえた虫たちを観察がすんだらお礼を言って空に返した。芝生広場ではバッタなどを捕まえることができた。掲示板の柱には羽化したばかりのニイニイゼミが見つかり、夏の到来を実感した。管理棟の軒下にはいくつかのツバメの巣があった。親鳥が戻ってくると雛たちは大きな口を開け、餌をねだる。せっせと餌を捕っては雛に運ぶ親鳥たち、子育ての苦労は人間も鳥も一緒だ。

坂田が池へ下る階段で何やら青く細い物が前を横切った。これは何？ ニホントカゲだ。完全に成体になっていないトカゲは青いメタリックな体でとてもきれい。都会育ちの方々にはトカゲもなじみが薄いらしく、喜んでくれた。浮き橋を渡って池沿いの道を辿る。斜面の木々が程よく日影を提供して暑さを和らげてくれてありがたい。斜面にはアカヤマドリなど大小さまざまなキノコが見られた。キノコを見た方々から「食べられる？」という質問がでた。キノコは専門家でも判断が難しく間違えると致命的になるので、勝手に判断して食べないようにと注意を促した。今日の最奥地点湿生植物園は木道が整備されていて歩きやすい。コウホネが黄色の花をつけチョウトンボが優美な姿を見せていた。ここで一息休憩タイム、水分補給をした。

池沿いの道を駐車場まで戻る。池沿いの湧水にサワガニの姿が見えた。残念ながら死んでいたが、大勢の人が行き交う道の脇にひっそりとサワガニがいるのを知って、参加者からは感動の声も。大変な猛暑の日だったが、一人も脱落せずに楽しく観察会を終えることができた。参加者の皆さんからは「坂田が池の自然の豊かさを知った」「トンボの違いが分かった」などの感想が寄せられた。



昆虫の説明を聞く(子ども班)



オカトラノオの観察(大人班)



湿生植物園で休憩、U ターン